



紫國歌壇

麥笛

市原武夫

畑より歸る夕べの山道に麥笛の音さみしくきこゆ
鐵肩に歸りて來れば弟は淋しく麥笛ふいて居りけり

友を訪ねて

結城芳美

杉並木にて有名な街道の驛から
友の住む家は一里餘ある
冬の夜のはらけき露はうらがなれし山旅の

傷心餘録

竹馬棹

こゝだくの桐の落葉をふみしづめばかなきひとの
いのちをおもふ
すべしに仰げる空はくもりをり月のありどの
おぼるおぼるに
あたとりてかれば庭への真面目のあはれなれならし



國俳壇

春季雜詠

孤 杉 選

川の宿芹流はれて床にあり
庭の木に鳩巢籠りて居たりけり

尼立子 同

尼寺の入口せまし玉梅
梅々枝にかけし囀の高啼ける

百笑

菜の花や右は曇れる海の面
蝶々や庇にゆるゝ木の影

きよし 同

乳牛や木棚の梅に啼き暮るゝ
にばとりを追ふ我大や桃の花

利政

草に寝て潮鳴りなきく春日哉
駿岡の石階にすみれ咲きにけり

不知火 同

牧場に牛啼盡や春の風
小鯛のみあがる地曳や春の雷

紫香

丘畑に佇む人や雲雀啼れ
春愁や踏みつつちぎりつ土筆

吟月 同

選者 舊吟
ここに來れば向ふの丘の桃赤し

孤 杉

瀧り持つ土の香親し畑打
鯉汁をすゝりて餘寒凌ぎけり

柳風 同

初午や狐助けし先祖より

同

夏の句を募集します。振つて御投吟を御願致します